

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	871000303		
法人名	医療法人 光潤会		
事業所名	グループホーム ゆうらく		
所在地	下妻市江2443-1 (電話) 0296-30-1400		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成20年2月15日

【情報提供票より】(平成19年9月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤	人, 常勤換算16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	運営管理費14,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(9月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4	要介護2	5		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平間病院、渡辺歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は、ホーム名の所以である「のんびり・ゆっくり・自由」な生活を利用者が送れるよう、利用者一人ひとりに寄り添い十分なコミュニケーションを図りながら利用者に応じた支援を行っている。
ホームの周辺には設置法人が運営している病院や福祉施設があるほか、利用者の体調に変化があった時や緊急時の対応など適切な支援が行える環境となっており、利用者や家族等は安心して利用している。
また、利用者が重度化した場合や終末期の対応に積極的に取り組んでおり、家族等から同意を得たり確認を取りながら利用者にとってホームが終の棲家となるよう、管理者と職員が丸となって支援しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、市町村との関わりが十分ではなかったが、管理者は市が設置する地域密着型サービスの運営委員となっており定期的に意見交換を行うほか、運営に際し不明なことを相談するなど情報交換をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善できるところは職員と話し合いながら改善している。 管理者と職員が意見交換をしながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を定期的で開催しており、「地域との連携」や「身体拘束」などの議題で意見交換を行っている。 また、運営推進会議の議事録の作成や運営推進会議の内容や意見等について職員に報告するとともに、広報誌に議題や次回の開催予定日等を掲載している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの相談窓口や担当者を配置するとともに、県や市などの外部機関を重要事項説明書に明示し、説明している。 広報誌「ゆうらくふあみりい〜」に花見などの行事や職員紹介を掲載しており、家族に送付している。 また、家族の面会時や電話にて利用者の日々の様子を伝えるとともに、金銭の出納状況について報告している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域で開催している夏祭りや納涼祭などに参加し地域の方々とは交流するとともに、ホーム等で企画しているイベントに地域の方々を招待している。 また、近所の方が収穫した農作物をホームに届けてくれている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域・家庭的な雰囲気の中で、のんびり・ゆっくり暮らすことができるようホームの名前を考え、また、理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のほかにユニットの目標を利用者と職員が共に考え実践している。 管理者や職員は、利用者が毎日落ち着いた生活が送れるよう笑顔を絶やさず支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催している夏祭りや納涼祭などに参加し交流するとともに、ホーム等で企画しているイベントに地域の方々を招待している。 また、近所の方が収穫した農作物をホームに届けてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善できるところは職員と話し合いながら改善している。 管理者と職員が意見交換をしながら自己評価に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催しており、「地域との連携」や「身体拘束」などの議題で意見交換を行っている。 また、運営推進会議の議事録の作成や運営推進会議の内容や意見等を職員に報告するとともに、広報誌に議題や次回開催予定日等を掲載している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市が設置する地域密着型サービスの運営委員となっており、定期的に意見交換を行うほか、運営に際し不明なことを相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「ゆうらくふぁみりい〜」に花見などの行事や職員紹介を掲載しており、家族に送付している。 また、家族の面会時や電話で利用者の日々の様子を伝えるとともに、金銭の出納状況について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談窓口や担当者を配置するとともに、県や市などの外部機関を重要事項説明書に明示し、説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は日常的にユニット間を行き来できるとともに、散歩は2ユニットの利用者が一緒に出かけるなど、利用者間や職員が馴染みの関係となるよう配慮している。 法人内での職員旅行の参加や託児所の利用など福利厚生面が充実しており、職員が働きやすい環境となっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士等の資格取得を推進するとともに、職員の経験年数や資格に応じた外部研修を受講している。 研修を受講した職員が他の職員に研修の内容を発表している。 研修係が研修テーマを考え、職員が講師となって内部研修を定期的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び市のグループホーム連絡協議会に加入しており、各主催の研修会に職員を派遣し事業所間の交流を図っている。 管理者は、市内の介護支援専門員連絡協議会の設立を手伝うとともに、設立後には会議の会場を事業所の持ち回りにするなど相互訪問できるよう配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族の訪問、事業者から自宅を訪問するなど、利用に関する面接や相談を行っている。 また、利用予定者がホームを訪問したときは、利用者が話しかけるなどの協力を行うとともに、状況によっては体験入居も受け入れる体制となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から野菜の育て方や調理の仕方・ピアノの演奏など、利用者とともに生活する中で学び支えあえる関係作りを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に利用者の生活歴やホームでの生活の意向を本人や家族から聴取するとともに、利用調査票に記録している。 また、生活していく中でコミュニケーションを図りながら、利用者の表情や仕草などを読み取ることにより把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を相談時に聴取するとともに、サービス担当者会議を開き、職員の意見等を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとに担当者を決めて毎月目標の達成状況の評価を行い、期間満了時には本人等からの意向の確認やサービス担当者会議による検討を行い見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリの希望や理美容を希望する利用者には職員が付き添ったり、送迎などの支援をしている。 また、家族がホームに宿泊できるよう体制を整備している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に病院から本人の既往歴等の情報を得ている。 本人や家族の意向を聞き、継続した適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応や看取りに関する取り決めをホームで定めており、契約書や重要事項説明書に明示するとともに家族に説明し、看取りに関する同意書に同意を得ている。 利用者のかかりつけ医や協力医療機関の医師や看護師との連携を密にしている。	○	重度化や終末期における職員の対応等について、マニュアルを作成することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者と家族のように親しく接しながらも、利用者の誇りやプライドを傷つけない言葉かけを行っている。 「個人情報の利用目的」を作成し、契約時に説明するとともに、記録等は事務所の鍵のかかる所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースで生活することができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で取れた野菜の調理・配膳や下膳・食器拭きなど利用者ができるを手伝っている。 給食委員会を設置し、利用者から嗜好調査を行うとともに、把握したことを献立に反映している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、入浴の順番や時間に配慮した支援を行っている。 また、利用者に季節感や香りを楽しんでもらえるよう、菖蒲、柚子、りんごなどを準備している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノを弾くのが得意な方・調理の手伝いをする方など、利用者一人ひとりのできる事を把握し、状況に応じた場面づくりを行っている。 また、利用者が行きたいところ・食べたいものを聞いて外食や外出するなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や博物館見学・夏祭りなど季節に応じた企画を立て、利用者が外出できるよう支援している。 利用者が好きな食べ物を食べられるよう外食する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に接する中で、コミュニケーションを図りながら利用者の生活歴や行動パターンを把握することに努め、利用者が外出することを止めることなく、安全に見守りによる支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの建物は耐火構造となっているほか、調理をする際にも電気を活用したものを利用している。 また、年2回消防署の協力による避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士と相談し、栄養のバランスに配慮した献立をたて、利用者の嚥下状態等に配慮した食事を提供している。 食事や水分の摂取状況についてチェック表を作成し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・ダイニングとキッチンが連動しており、利用者がくつろげるようゆったりとしたスペースを確保するとともに、季節の花を飾ったり、調理時の匂いが漂う等、季節や生活に配慮できるよう工夫している。 また、季節の草花や家庭菜園が見える大きな窓からは、自然の光がホームに差し込んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に手づくりの作品を掲示するとともに、家族の写真や置物・時計など、利用者が大切な物を持ち込んでいる。 また、居室の一角に畳を敷いて安らぎが持てるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。